

はらむら



議会だより

第99号

平成21年11月10日発行

発行／長野県諏訪郡

原村議会

編集／議会広報編集委員会

TEL 0266-79-2111

FAX 0266-79-7951

☎ 391-0192



青空に 元気な鉄腕アトム

■平成21年■

9月
定例会

- 9月定例会…………… 2
- 委員会報告…………… 4
- 一般質問…………… 6
- 第3回臨時会…………… 9
- 特別委員会報告…………… 10
- 視察報告…………… 11
- 議会日誌…………… 12
- 村民の声募集…………… 12

9月定例会

平成21年第3回定例会は9月2日から18日まで、会期17日間で開催された。

「平成20年度一般会計決算の認定」など村長提出議案等20件と議員提出議案5件を審議した。委員会での審査の内容は委員長報告のとおりです。

◎諏訪南行政事務組合規約の変更

(内容) 諏訪南清掃センターの管理・運営に関する経常的経費を従来の均等割り20%・人口割り80%から均等割り20%・実績(排出量)割り80%に変更するもの。

☆賛成討論

・住民のゴミ排出削減努力が見える方向である。
住民の削減努力が解るように、削減量の推移を広報に掲載すべきである。
また、行政の姿勢としてゴミ全体の分別を進め資源化(リサイクル)への更なる努力を望む。

◎平成20年一般会計決算

・放課後子ども教室への取り組みが不十分。
・行政が使ったお金が住民サービス向上に結びついていない。
・商工・農業者の実態把握に役場職員が一度も出向いていない。行革で人員が減り、細かな対応が出来ていない。人員配置を見直し、庁内上げて全力で取組むべきである。

☆反対討論

(内容) 歳入総額39億39万円に対し歳出総額は33億6千367万円で、差引額は5億3千671万円。
前年度比で歳入は0.6%増、歳出は1.0%の減となり、翌年度に繰り越すべき財源は7千1万円であり、実質収支額は4億6千670万円の赤字、単年度収支額については1千377万円の赤字となり、財政調整基金への積立て・取崩しを加減した実質単年度収支額も984万円の赤字となった。

☆賛成討論

・認定はするが、当初予算の概要で「新たな村づくりへの挑戦」をうたっているが、決算書からは結果が見えてこない。
納税通知書未発行問題について、納税者の代表である議会に対して、経過説明がなく、二元代表制の原則に反する。行政のおごりではないか。

◎国民健康保険事業勘定特別会計決算

(内容) 世帯数・被保険者数とも前年に比べて減っている。(世帯数1千612戸から1千307戸、被保険者数3千347人から2千590人)これは、75歳以上の方が後期高齢者医療に、65歳以上の退職者医療該

当者が、前期高齢者に移行したことによる。

☆反対討論

・高齢者の医療差別につながる為、反対する。

☆賛成討論

・不景気にて、保険制度の運営が厳しくなっている中、健闘している。

◎後期高齢者医療特別会計決算

(内容) 医療費状況は、対象人員(平均)1千82人で、一人当たりの医療費は57万9千799円となっている。

☆反対討論

・老人いじめの制度でありこの決算に反対する。

☆賛成討論

原村は行政や他の機関の努力によって、県下81市町村の中で67位となっている。よって賛成する。

保護のため「所得税法56条の廃止を求める意見書」採択を求める請願書

請願者

長野県商工団体連合会
婦人部協議会
会長 小野 百合子

他1名

「賛成多数で採択」
意見書提出

◎食料の自給率向上と、食の安全・安心の回復に向けて、食品表示制度の抜本改正を求める請願書

請願者

生活クラブ生活協同組合原支部
副支部長 日達あけみ
「全会一致で採択」
意見書提出

◎私立高校に対する大幅な費助成をお願いする陳情書

陳情者

中信地区私学助成推進協議会
会長 笠原 真美

「全会一致で一部採択」
意見書提出

◎家族従業者・女性の人權

請願・陳情の審査

委員会報告

総務産業常任委員会

委員長 菊池敏郎

9月議会は、決算議会といわれるように昨年度の決算が大きな比重を占めた。補正予算等も審議した。

◎20年度一般会計決算

歳入では、固定資産税、個人住民税が増加した。住民税は、一昨年の所得が基準になっている。昨年後半の、経済危機の影響は、来年度の決算に表れる。

審議で話し合われた主な点

☆基金（預金相当）の主な管理が、国債の売買で行われている。

☆徴税事務では、昨年と今年の固定資産税の納税通知書が52件未発行であったがその原因と対応について審議した。

原因は、職員のコンピ

ユーターへの入力ミスが重なったことと職員体制の不十分さではないかと指摘された。

また「おわび状」が村長名でなかったことの問題も指摘された。

☆職員体制を把握するためにも、月別、課別の労働時間調査の必要性が指摘された。

☆地球温暖化防止策の状況把握が不十分と指摘された。

☆農業振興では、圃場整備地区内の不耕作地が5haにもなることへの憂慮が示された。

減反政策への参加問題には、新食糧法の下では仕方ないと回答があった。

☆商工業支援策では、昨年

後半の経済危機の影響の実態が調査すらされていないことの姿勢が批判された。

縦の木荘への食事に対する不満対応が不十分と指摘された。宿泊施設としての今後の在り方について検討することの必要性が指摘された。以上のほか、数十項目が審議対象となった。

◎有線放送特別会計決算

原山地区にエリア拡大のためLCVに、補助金が、452万円余出されたが、有線放送等への加入が少ないと指摘された。(17年から21年までで総額2千360万円余が補助される。11戸が有線放送等に加入)

◎21年度一般会計補正予算

役場の耐震補強事業に、国の補助が決定したことや雇用対策事業として文化園に職員を雇用し、観光商品の開発を行うことが含まれている。また、山梨県北杜市、富士見町と共同で「八ヶ岳観光圏」

構想の指定を受けるための負担金である。

審議では、村として観光事業に取り組む必要性が指摘された。

〔請願〕

◎家族従業者・女性の人権保障のため「所得税法56条の廃止」を求める請願書

白色申告では、家族従業員の給与を認めていない。「所得税法第56条」を廃止して、給与の適正支払いを認めるよう求める内容である。

審議では、所得補償の時に基準にされる実態などが示された。

◎食糧の自給力向上と食の安全・安心回復に向けて、食品表示制度の抜本改正を求める請願書

加工食品の原産地表示と遺伝子組み換え農産物やクローン家畜の表示を義務付けることを求める内容である。審議では、産地偽装や毒入り食品に対する不安



機械要素技術展 (東京ビッグサイト)

を取り除くことの必要性が審議された。

社会文教常任委員会

委員長 小平 雅彦

議案12件、陳情1件を審査した。

・医療費は県下81市町村中67位となっている。

業は、親のフォロー事業とともに評価できる。更に、保育所、学校教育と連携した推進が必要。

☆中学校の図書館の雨漏、その他床、天井等の改修を計画的にすべきである。

〔陳情〕
◎私立高校に対する大幅公費助成をお願いする陳情書
☆陳情者の求める直接補助は、なお検討を要する。一部採択すべき。

◎諏訪南行政事務組合規約の変更

◎20年度上下水道事業会計決算

・経常的経費の人口割を実績割に変更するもの。

・下水は、使用料単価は175円強、汚水処理原価は331円強で、料金改定の検討が必要になるかも。

☆新型インフルエンザに対する予防接種の負担軽減が必要。

☆図書館の「村史」は、原村ファンクラブ、ホームページ等での紹介が望まれる。

☆実績割への変更は評価できる。均等割分は原村として負担増となるので更に、実績割への方向を検討してほしい。

◎21年度一般会計補正予算

☆生ゴミ処理機は順調に稼働、処理された堆肥を学校等で活用推進を検討すべき。

☆八ヶ岳美術館は全国的な入館者低迷傾向の中で実績を評価したい。土器等展示物の地震対策を検討してほしい。

◎21年度国民健康保険事業勘定特別会計補正予算

◎21年度一般会計補正予算

・出産育児一時金4万円の引き上げに伴うもの。

「中央高原人口」交差点歩道設置、中学校理科室ガス管改修等。

☆図書館南の「アカデミーパーク」のトウヒ等樹木間伐が必要。

☆阿久遺跡の環境整備、埋蔵文化財、民俗資料の管理、展示方法等関係者の意見を聞き進めることが望まれる。等の意見があった。

☆保育所の病児保育との連携等、地域医療の拠点として事業を進めており、評価する。

◎20年度一般会計決算

☆学童クラブの必要性は増加している。施設建設の内容の充実が望まれる。

☆教育費の原つ子広場、学童クラブの取り組みが弱く反対との意見があった。

◎20年度国民健康保険事業勘定特別会計決算

◎20年度一般会計決算

☆放課後こども教室は、空き教室活用が検討されているが管理等の問題から、学校教育と分離が必要。また、利用規程の見直しが必要になっている。

☆子育て支援等への取り組みを評価、予算も適正に執行されているとの賛成意見があった。

☆子育てフォローアップ事業

☆ボランティア事業に対する活動促進、推進体制の整備が必要。

(5) 第99号 はらむら議会だより

◎20年度後期高齢者医療特別会計決算

☆子育てフォローアップ事業

☆子育てフォローアップ事業



学童クラブ

一般質問 村政を問う

村職員への「心の健康の保持増進」の取組みは

五味 武雄



メンタルヘルスケアを積極的に取り入れる

〔質問〕厚労省が「労働者の心の健康の保持増進のための指針」を公表しているが、首長としてどの様に認識されているか。

〔村長〕職員に対するメンタルヘルスケアを、積極的に取り入れていかなければいけないと考えている。

〔質問〕庁内において、「心の健康づくり計画」は策定されているのか。未策定ならば、いつ頃までに整備する考えか。

〔村長〕現在未策定であるが、メンタルヘルスの研修と相談会を実施している。

〔課長〕産業医の選任を来年度に行い、産業医の指導を仰ぎながら、このような問題にも対処していきたい。

〔質問〕休職されている職員に対する職場復帰支援策

として、具体的なプログラムを持ってしているのか。
〔課長〕受診している主治医に面談を求め、どの様に職場復帰を考えているのかを、お聞きしている段階である。

〔質問〕人間ドック補助事業の現状は。また今後の補助金交付件数・交付額をどの様に見込んでいるのか。

〔課長〕平成13年は82件で交付額が227万円。平成20年には167件で交付額が458万円と、ほぼ倍増している状況である。

今後については、原村包括医療推進協議会の専門部会で、補助金の見直し等を含めて、人間ドックのあり方そのものを検討している。

〔質問〕肺炎球菌ワクチン接種の公費助成の検討は出ないか。

〔課長〕今年度、専門部会で検討している。

「農村公園」管理条例の早期制定を

小林 庄三郎



地区の実情に応じた管理にしたい

〔村長〕当村には4ヶ所の農村公園がある。早期に各地区と話し合いを持って、地区の実情に応じた管理方法を決定していきたい。

〔質問〕道路の安全確保は、日々の暮らしの中で大変重要な事である。

歩行者の安全、特に小学生、中学生の通学路についての安全確保は最も重要であり、拡幅や歩道設置の要望がある。村内の県道整備箇所の現在状況と見通しは。

〔村長〕県道神ノ原青柳停車場線、大久保地区内の拡幅は用地確保は終わっているがN.T.Tの光ファイバーの移転補償に時間がかかっている。

拡沢地区内の拡幅歩道設置は、用地確保ができた部分から事業実施を予定している。

〔質問〕「公の施設」農村公園（弘沢・室内・柏木・深山）の管理状況は。又その他の公園（南原運動公園・やつがね公民館広場）も、地元区が草刈や設備の清掃など管理を行っている。又電気料、水道料などの費用も各区が負担している。大きな事故などは、今のところ聞いていないが、住民が安心して利用する為にも、管理に関する条例を早期に定めるべきでは。

中新田区内の歩道設置については、地元は道路両側を均等に広げ、歩道は一方に設置を希望しているが、県側は両側を広げるのは無理で片側という意向を地元区に伝えている。